

## 平成30年度 第4回環境科学部フィールドスクール (10/13) 「長崎の獣害対策—地域資源としての野生動物」が行われました。

10月13日(土)に行われた第4回フィールドスクールでは、獣害問題とその対策について学ぶ実習を行いました。獣害対策は防除するだけでなく、捕獲した野生動物の利活用を含めた総合的な対策が必要とされています。そこで、問題の現状把握と対策の総合的理解のため、長崎県農林部、諫早猟友会、諫早猪処理販売センターの方々のご協力を賜り、長崎県で問題となっているイノシシ被害の実態から、被害対策の現状と課題、地域資源としてのイノシシの活用までを学ぶプログラムを企画しました。

当日の午前中は長崎県農林技術開発センター(諫早市)を訪問し、長崎県の獣害問題とその対策の現状を中心に解説いただきました(写真1)。そこでは、獣害対策が被害防除や捕獲だけでなく、捕獲した動物の利活用も含む総合的な対策であることを学び、学生も積極的に質問をしていました。

午後は諫早市猟友会会長の協力のもと、罠にかかっていたイノシシの止め刺しの様子を見学させていただきました(写真2)。その後、猪解体処理センター(諫早市)を訪問し、専門家のご指導のもと捕獲されたイノシシを解体する体験実習を行いました(写真3)。解体した肉は各自持ち帰り、調理して食べるころまで取り組みました(写真4)。イノシシの解体という貴重な経験を通して、対策の苦労だけでなく、人間と自然の共生についての奥深さを知る学びができたと思われました。



写真1：獣害問題の現状や対策の方法を学ぶ  
(長崎県農林技術開発センター)



写真2：イノシシの止め刺しの様子を見守る  
(諫早市)



写真3：イノシシの解体体験  
(猪解体処理センター)



写真4：各自でイノシシの調理に取り組む（実習後のレポートより）

（玉葱炒め、トマト入り肉じゃが、塩焼き、角煮、キノコのバジルソース炒め、シチュー、味噌鍋など）

